



# 森のなかま

2010年1月号

No. 21 (継続166)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

新しい年を迎え、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。  
本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

NPO法人 かながわ森林インストラクターの会  
理事長 島岡 功

私たちの会は、自立した活動組織を目指したNPO移行、2年目の平成21年度も、残すこと数カ月の期間がありますが、皆様のご協力のもとに、既に多くの成果をあげてきたと思います。又、昨年11月には、11期生35名の方々が、新しい仲間に加わりました。ご活躍を期待いたします。

年の初めに、NPO法人活動について、平成21年を振り返りながら、これからの進め方などを、皆様と共に考えてみたいと思います。

昨年は、念願の連絡事務所の開設が実現しました。開設に当たり、関係の方々には、大変お世話になりありがとうございました。又、皆様から記念の寄付にご協力を戴いたことに、心から御礼を申し上げます。これからの連絡事務所は、効率的活用方法を皆様の想いで確立し、会の発展に繋げることを期待します。

委託事業については、事業実施の体制を模索しながら、新たな事業の受託活動に取り組んでまいりました。神奈川県電子入札業者登録申請を行い、競争入札参加資格認定を受けました。それらの結果ででしょうか、やどりき水源林環境整備業務の受託につながったものと思われます。委託事業では、作業者の雇用等人事関係業務も発生し、新たな経験となりました。これからは、委託事業実施体制をしっかりと作り、柔軟に対応できることを期待しています。委託事業は、事務処理等負担と人員確保の確実性が求められてきますが、皆様のご協力のもとに、会の本来事業活動を支えるため、是非推進が必要と思います。部会活動については、対象が外に向かってオープンに変化してきました。

自然観察部会は、以前から一般市民対象の事業を実施してきましたが、全ての部会がその方向に変えてきました。11月に実施した、森林文化部会主催の森林に関する講演会は、関係の方々のご支援のもと、会員の他多くの皆様にご参加戴きました。私たちの活動のコンセプトは、自主的な普及啓発活動により、県民の方々に、広く森林・自然環境保全の大切さ等を伝えることであり、この度の講演会は、その一つの事例と考えています。

今後は、外向け事業と委託事業の拡大が期待されますが、ボランティア活動へのインセンティブと事情を踏まえながら、本来の目的を見失うことなく、社会に期待される組織活動を目指していきましょう。

平成22年5月は、神奈川県的一大イベント、全国植樹祭と全国林業後継者大会が開催されます。私たちの会は、県及び関係機関に協力して万全な実行体制で臨むことが、求められています。会員の皆様のご全面的なご協力をお願いいたします。



神奈川の海 湘南海岸の初日の出

写真：広報部(鈴木松弘)

全国植樹祭へむけて総力をあげよう！



5月23日(日)第61回 全国植樹祭2010 5月22日前日準備

## 化石が語るかながわの大地の成り立ち



12月12日やどりき水源林にて行われました門田真人先生のご指導による森林インストラクター・ブラッシュアップ研修「やどりき水源林の岩石・化石」を中心に、新聞「有隣」(2009/3/10)「読売新聞」(2008/8/14)などの記事を参考にまとめました。 自然観察部会・部会長 野田重雄

門田真人先生の横顔(中央)  
かながわ地学会副会長  
県立生命の星・地球博物館  
外来研究員

1978年ごろから丹沢のあちこちでアオサンゴ、キクメイシサンゴ、シヨウガサンゴ、ミレポラ、ヨロンキクメイシ、オヤユビミドリイシなど熱帯性を強く示すサンゴや有孔虫、オウムガイの化石が発見されるようになった。これらのサンゴの種類は奄美大島以南のもので、赤道周辺のみに生息しているものも含まれていた。そして、これらのサンゴ礁の化石は約1500万年前の生き物であることが分かってきた。

また、南の海の深海底の亀裂から噴き出したマグマは、高い水圧と冷海水によって、枕状溶岩という特殊な火山岩となって、丹沢山地・伊豆半島の10ヶ所で見つかっている。それが、ここ寄(やどりき)沢でも幾つも見つかっている。

それでは、なぜ遠くの海底が丹沢の山の中で発見されたのでしょうか。

約1700万年前に南の海でできた火山諸島がフィリピン海プレートに乗って北上し日本列島に衝突した。その後、同じように丹沢のあとから来た伊豆火山諸島が衝突し、押しあげられ隆起した場所が丹沢山地です。この事実は、当時東海大学付属相模高校の地学の教師であった門田真人先生が地学部の生徒さんたちと一緒に長年の調査活動で丹沢で熱帯性のサンゴの化石を沢山発見したことで、実証されることとなった。

そして、これまでの「丹沢造山運動・地向斜理論」ではうまく説明のつかなかったことが、熱帯性の化石の発見で、「伊豆半島の北上・衝突説」が立証されることとなった。

さらに丹沢山地・伊豆半島でサンゴ礁化石が点在しているのは、大きな火山が一つ存在していたのではなく、火山諸島として多くの火山島が存在していて、その周りにさまざまなサンゴが生息していたことを意味している。

以上のように門田先生たちの調査研究によって、現在の丹沢山地は、太古の昔は熱帯のサンゴ礁の生き物たちの楽園で、現在はそれらの痕跡を残す大切な証拠の場所なのです。



林道コースに顔を出した枕状溶岩



寄沢・水棚沢出合付近の、枕状溶岩

癒し部会  
報告

~ やどりき水源林

森のセラピー体験~

11月  
21日

やどりき水源林にて一般参加者向けの癒し体験を行いました。

5月に七沢で行った会員向けの下見をかねての研修、一般の方もご参加いただいた一度目の癒し体験に続き、2回目の一般向けの癒し体験です。

11名の一般の方が参加されました。当日は一番心配であった天候も何とかクリアし、肌寒くはありましたが、上々の天気恵まれました。あたりの紅葉も素晴らしく綺麗に見えたと思います。

午前中はゆっくりとやどりき水源林の自然を五感を使って感じていただきました。まずは周りの山々の色・美しい紅葉を目でみていただき、川のせせらぎを聞き、その水の冷たさを肌で確かめてみる。Bコースをまわって木漏れ日の差込みがダイヤモンドの輝きのごとくみえたり、木々の間に寝転んでしばし樹冠をながめて過ごして頂く・・・不規則な木々の揺らぎや間から見える空に浮かんだ雲の流れを見ていると皆、時間を忘れてしまう・・・。

沢の水に手をいれて、川の水の冷たさとくらべてみる・・・そのちがいをを感じる。ヤブムラサキのピロードのような手触りの葉や香りのするサンショウ、コクサギなども確かめてみる。木々の間でゆっくりとした呼吸法でフィトンチッドを体いっぱいに取り込み清々しい気分になる。午前の最後はタカナシの森で川のせせらぎを聞きつつ、瞑想してみる。

午後は良い香りのクロモジで楊枝づくりを体験していただきました。皆さん、夢中になってマイ楊枝を作成されていました。

参加者からの感想では、五感を使っての気功や瞑想で癒され、気持ち良かった。一日ゆったり、のんびり過ごせて癒された。素敵なお土産がとてもうれしかった。木漏れ日の下でのゴロ寝は良かった。その時に森の物語や神話があればなお良かった。肩の疲れがとれた。クロモジの楊枝づくりが一番たのしかった。などがありました。

アンケートでは10の方が参加してよかった。今後も9の方が参加したいと思うと答えられました。

ご意見では5K以上歩くのはきついですとの答えもあり、反省会では参加者のニーズに合わせたプログラムの選択や進行も考えていかなければならない、さらに今後、一般の参加を呼びかける方法についてももっと工夫が必要との活発な意見も出ました。

まだ、部会としては出来たばかりですが、これからも一般の方々に森に来ていただき、多くの方に森の癒し効果を体験していただくことを通して森を身近に感じていただく事、また大切なものだとして認識していただけたらと思います。最後にスタッフとしてご協力いただきました方々に感謝いたします。お疲れ様でした。



クロモジの楊枝づくり体験



瞑想・・・。

## 私の認識

## 野鳥その74

高橋 恒通

スズメ目ホオジロ科の野鳥の3番目は留鳥(漂鳥)のアオジ(漢和名:青鷗、英名:Black-face Bunting, 体長L=16cm)についてです。

体色は ほぼ同色と明記された図鑑もありますが、厳密に言えば は嘴の付け根の処が黒っぽい色が と区別できる点です。

成鳥 は、頭と顔が灰緑黄色で目先が黒色です。但し、黒色が夏羽では明瞭、冬羽はそれがハッキリしません。

それ以外は 共に背面が雀の如き淡褐色に黒褐色の縦斑、胸前と胸側に淡褐色の縦斑、下面は黄色です。繁殖期の(夏羽)は下面の黄色が より濃いと認識しています。

棲息環境は、繁殖期には高原の明るい疎林や草地に接する林縁など、そして北海道では海岸の低木林でも棲息します。また非繁殖期には、小群で全国の丘陵地や平地の灌木などの茂みや竹藪、冬季には公園などにも現われます。



の成鳥



の成鳥

地上に降りてホオジロやカシラダカと同じく跳ね歩き、草の実、昆虫類、クモ類などを採食します。

アオジは前稿でもチョット紹介しましたが、非繁殖期の地鳴きは「ジェッ」と濁った力強い声を発し、冬枯れのブッシュや低木の茂みなどで小群でチョロチョロする地味な野鳥であります。

所が繁殖期には、高原のカラマツ林やシラカバの疎林での行動は、これが冬場に町の公園の低木の疎な植え込みの中で地鳴きしていたのと同じ種かと

疑いたくなる程の変身をする野鳥だと認識しております。

私が清里での「囀り研究会」の折に、アオジの囀りの場面を何度も観ておりますので、研究会の内容も含めて詳しく説明します。

研究会は毎年6月の第2週の木金土と決まりました。先生1人に対し生徒は3~4人の少規模スクールで、1台の車に全員乗って清里に在る某会社の研修所に行きます。

その研修所を宿舎にした2泊3日の合宿研修です。平塚を木曜朝7時前に出発し、10時半頃に清里着。宿舎に探鳥用具以外を預けて、東沢溪谷か天女山でバーディングし、清泉寮で昼食後、野辺山高原でバーディングし帰宿。

翌朝は4時起床、4時半出発の早朝探鳥会、7時帰宿し朝食と言うのが例年通りです。

宿舎の近くに北澤美術館があり、その脇の蛇行した散策路を登り乍らの約2時間余りの濃密な研修時間でした。帰路は広い下りの道路を朝日に映える赤岳を背に宿に向かいます。

アオジの囀りは、道路の脇の高いカラマツの天辺で「チョッチリ、チョチョピーチチチリー」と賑やかです。冬季の濁った「ジェッ」と地鳴きする種であるとは思えない姿です。それも毎年この光景に接した訳ですから、アオジと言う野鳥に対する私の認識は特別です。

所で、「囀り研究会」はこの金曜日の早朝から夜就寝前までの1日がハードでしたが、大変に濃密で充実した研修中日でありました。

早朝探鳥時に先生は最新のデジタル式録音機で録音し、各野鳥の囀りの特長を説明して呉れました。そして夜はそれを我々に聴かせて「この鳥の名は？」と質問される復習が本当にキツかったし、勉強になりました。

金曜日の昼間は、八千穂高原、白駒池、麦草峠、年によっては、松原湖や稲子、八ヶ岳高原や千曲川沿いの海の口辺りでの鳥見三昧でした。先生の丁寧的確な解説付きの小人数スクーリングです。然も私が参加した年は一度も降雨に遭わなかった事は大変な僥倖だったと感謝しています。

## &lt;参考資料&gt;

日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴き声)/上田秀雄、山と溪谷社。

とり 自然ガイド 浜口哲一・文、佐野裕彦・絵 文一総合出版。

アオジ の写真/Yahoo オンライン野鳥図鑑より

## 森林文化講演会報告 「豊かな生態系は地域の宝」 森林文化部会

開催日時 平成21年11月29日(日) 13時30分～16時

開催場所 桜美林大学 PFC(プラネット淵野辺キャンパス) P201教室

講師 只木良也氏 <国民森林会議 会長・名古屋大学 名誉教授(農学博士)>

参加者 98名



この講演会の企画は、昨年10月の21年度ブラッシュアップ企画案提出に始まり、ブラッシュアップ不採用となったときから、森林文化部会の事業として準備が進められた。只木氏がどこにお住いか、講演料はどのくらいか、それより先にどこに連絡をしたらいいのか、雲をつかむような不安を払いのけられたのは、ただ「只木氏のお話が聞きたい」の一念であった。21年度の予算が認められ、只木氏の快諾を得て、本格始動したのが4月、一番の苦労は会場探しであった。

100名を収容できる公共施設の会場は少なく、優先使用が決まっていたり、6ヶ月前の予約・抽選に外れたり、とチラシの作成や後援名義使用の申請手続きへの影響が心配されたとき、幸いにも桜美林大学の全面的な協力をいただけることになった。

講演会当日は、講師が森林生態学の第一人者ということもあり、また、神奈川県、相模原市、他4団体から後援をいただいたこともあり、98名(事前申し込み104名/定員100名)の参加者を得た。当会の会員が61名、その他は自然観察指導員や森づくりなどのボランティア活動に参加している方、一般の方で、森林の多面的効用や、自然環境に関心を持っている方がいかに多いかが窺えた。講演の内容も我が国の自然環境、森林の遷移・生態系、原生林は自然回復の手本、これからの里山は都市施設の一部など、人と森とのかかわりをわかりやすく話していただけた。もう少し踏み込んだお話が聞きたかったとの



講師 只木良也氏

思いもあるが、只木氏のお人柄が、終始和やかな雰囲気の中に終了した。

終了後のアンケート(回収率93%)によると、88%の方が講師のお話は期待通りだった、と回答した一方スライドの苦情も12%あった。感想は概ね好評で、再認識した、新情報を得た、今後の活動に生かしたい、などこれからの森づくりの活動の輪が広がっていく期待が持てて講演会の目的は達せられたと感じた。

ただ、運営面では初めて経験することばかりで余裕がなく、事前に予測できた事への適切な対応ができなかった自責の念が残る。スライドの映像に対する対策、講演時間の管理などである。そのことを反省した上で、最新設備を整えた大学で年代物のスライドを映写してくださったことも、貴重な時間を延長してお話くださったことも、只木氏のサービスだったのではないかと手前勝手に考えてありがたく思っている。

大風呂敷を広げて、奮闘した1年間であったが、多くの方々のお力添えをいただき、無事に終わることができてほっとしている。ご協力、ご支援、ご声援、ご参加くださった大勢の方々と遠路、京都からお越しいただいた只木良也氏に深く感謝している。



熱心に講演を聞く参加者 写真：広報部(鈴木松弘)

<森林文化講演会担当 内野ミドリ>

## 活動短信

10/28～11/29

## 除伐（林業体験）

**日** 10月28日（水）晴れ 9時半～13時半  
**場** 県立21世紀の森  
**参** 横浜市立西富岡小学校 81名（5年生71名  
 教師他10名）

**財** 古館  
**イ** 飯澤、高橋、宮本、横山、杉戸、  
 海野、酒井、

足柄の豊かな自然と触れ合うと共に森林を維持するために必要な作業を体験することを目的にアオキの除伐を行った。森林館前の駐車場に定刻に到着し整列、教師からの説明の後インストラクターにボタンタッチ。今の気分を親指の向きで表現して貰ったら横向き、下向きが約半分だった。水源林の役割の説明をした後、念のため木を切るのはい悪い事だと思う人は？と聞くと2～3割の生徒が手を挙げた。何故？木を切るのか答えをインストラクターと作業をしながら考えて貰うことにして、準備運動後班毎に出発。天然の森コースを、自然観察をしながら登り、相模湾を望む展望の良い場所で小休止をして、各班の作業現場に行った。ここで各自に道具を渡し鋸の使い方、伐採した木の処理方法を説明した後作業を開始。2～3mに成長したアオキが殆どで幹もかなり太い物もあって、最初はどこから手を付けたらいいのか戸惑う生徒も多かったが慣れるに従い皆夢中になって作業をしていた。作業は40分と短時間だったので全部の伐採は出来なかったが、作業した場所が明るく見通しが良くなり作業効果が目に見え全員満足した表情で作業を終了する事ができた。各自道具の手入れをして返却し、班毎に教師、インストラクターと共に昼食を摂り、森林館前の駐車場に下った。終了セレモニーで何故？木を切るのか分らなかった人と聞いたら1名いたがお友達に説明して貰い納得したようだった。今の気分を親指で表現してもらったら全員が上向きだった。（記 9期 飯澤）

## 自然観察しながらの登山

**日** 11月13日（金）曇り後雨 8時～16時  
**場** 愛川ふれあいの村～高取山～仏果山  
**参** 横浜市立浅間台小学校 114名  
 （4,5年生99名・教師他15名）

**イ** 友谷、堀江、佐藤、滝澤、伊藤、  
 武者、久保、松村俊、飯澤、海野、  
 自然観察・登山を通して、自分たちの住むまちと違う環境の場所があることを知り、その場所や、そこで育つ自然の動植物が育つ環境を尊重する気持ちを育てることを目的に高取山・仏果山の登山を行う予定だった。友谷、海野の2名は前日のナイトハイクから生徒達と行動を共にした。当日の朝は曇り空だったが雨になる事は確実視されていたので、登山の予定を変更して雨が降ったら直ぐ引き返す事にし、降らなくても午前中で戻れる範囲で山歩きをすることになった。

10班に分かれ自然観察をしながら高取山への登山道に登った。水源林の説明看板の有るところまで登りここで水源林についての説明をして休憩した後引き返した。この時期、見るべき花も少なく生徒達の興味・関心を引くのに工夫を要したが、木の実、キノコ等色々な発見が有って楽しく山歩きが出来たようだった。お昼近くふれあいの村に戻った頃雨が降り出した。体育館で班毎にインストラクター、教師、生徒と昼食を摂り、昼休みはおしゃべりをしたり遊んだりして過ごした。午後は班毎に分かれて焼き板作りをした。杉板をバーナーで黒く焼き、布で磨いた後、絵の具で絵や文字を描き、乾燥させてから透明ラッカーを吹き付けて仕上がりなのだが、我々は作業途中で定刻になり挨拶をして退場。生徒達はその後焼き板を完成させ、夜はキャンドルファイヤーをしてもう一泊。我々は別室で副校長先生、担当教師と次回実施に向けての反省会を行って解散した。

（記 9期 飯澤）

## 第21回神奈川トヨタプリウス森木会

## 自然観察会

**日** 11月21日（土）  
**場** やどりき水源林  
**参** 80名（内 15名トヨタ従業員）  
 金子部長・黒澤室長・佐藤係長・中木係員

**県** 齊藤副主幹  
**イ** 久保、森本、鈴木、白畑、伊藤、  
 松本、内野、



トヨタプリウス森木会は1998年年9月ヤビツ峠にプリウス森木会の森を設け、それ以来ずっと活動して来た歴史のある森林パートナーであり、さらに活発に活動するため「やどりき」に移って来られた。今回、参加者のお客様（プリウス購入者）も従業員「やどりき」は初めての方ばかりで、午前中やどりき水源森林の説明と「成長の森」への案内、そして午後Bコースを案内する計画であった。数日前の天気予報では雨/曇り曇りであったが、当日はすばらしい天気になった。我々は約束の9時30分より早く到着したが、既にトヨタの担当者たちは配置に就き忙しく動き回っていた。ところが東名道路での事故発生で、開催時刻近くになっても参加予定の人は集まらず、取り敢えずオリエンテーションを済ませ、6班に分けスタートした。

「成長の森」への道すがら、コース沿いの美しい紅葉に見とれ写真を撮る人、清んだ水の流れに感心する人そしてミツマタの群生に驚き咲く時期を尋ねる人、さまざまでしたが、一応にこのようなところが残っているのに感心したようだった。広場に到着したのは12時半をすでにまわっていた。Bコースへは13時30分スタート、新しいプリウスの森と今後の活動について説明そしてスギ・ヒノキ林の中でその香りを楽しんでもらった。最後の班が広場に帰ったのは予定通り15時であった。終了の挨拶と跡片付けを終え16時に少し前に「やどりき」を後にした。これからは、少人数(30名くらい)で年4回活動すること、パートナー森林に新しい風が吹き込むことを期待したい。(記 8期 久保)

「平成21年度 川崎市里山ボランティア育成講座」  
 < 第四回 >

**日** 11月28日(土)  
**場** 早野聖地公園(川崎市麻生区)  
**参** 一般市民 28名  
**スタッフ** 川崎市公園緑地協会ほか 9名  
**イ** L松崎、宮本、渡部、伊藤、清水、井口、

川崎市公園協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズ平成21年度の第四回目。

今回は麻生区早野にある早野聖地公園内で、大径木の伐採、水生動物調査の体験学習を行った。いつものようにオリエンテーションの後、現地活動団体の紹介が行われ、その後、松崎が森林整備と安全管理について簡単な講義を行った。10時過ぎ現場に出て大径木(と言っても直径20cm未満?)の伐採と後処理(玉切り、枝払い)を行った。好天に恵まれ参加者はみな張り切って作業をしていた。午後は神奈川県水面試験場職員による水生動物調査の体験学習を行い、3時終了。関係者は次回打ち合わせ等済ませ3時30分に解散した。以下は松崎の感想である。

一見、豊かな自然に囲まれ沢山の生物が生息しているように見えた早野の里山の小川にアメリカザリガニのほかに目立った生き物がいないと言う事が分かり、その理由が、上流にある溜池にブラックバス、ブルーギルが繁殖し他の水生動物を食べつくしてしまったから(土地の古老の話)と聞いて慄然とした。

なお、次回(今講座最終回)は1月30日(土)に黒川青少年野外活動センターで行われる予定。

(記 5期 松崎)

秦野市福祉協議会・第2回子供フェスティバル  
 クラフト体験

**日** 11月28日(土)10時~13時半  
**場** 秦野市保健福祉センター  
**参** 78家族(約180名)  
**イ** L宮本、生田、

\*目的:子育て家族のふれあいと交流の場を提供する。

親子で参加するクラフト体験コーナーで、松かさのミニツリーと輪ゴムを動力にした糸巻き車作りを

担当した。(体験コーナーでは、他に落葉アート作りなど4グループが参加した。)

当日は天気も良く、担当したコーナーは、昨年の倍以上の家族が参加された。真剣な顔でミニツリーの飾り付けをし、走り回る糸巻き車に歓声しながら、子供たちと、幼い子を連れた親は、満足感一杯の顔であった。

クラフトの内容と数量は、主催者と事前打ち合わせで決定したが、少し多めに準備した材料も残り少なくなり、ヒヤヒヤし、全て無くなった時、終了時間となりほっとした一日であった。

尚、他のコーナーでは協議会で用意した手伝いのボランティアがいたが、当方では昼食をとる暇も無い程参加者が多く、事前にボランティアをお願いしておけば良かったと思った。

(記 6期 宮本)



槐の会 森林活動

**日** 11月29日(日)  
**場** やどりき水源林  
**参** 100名

**イ** L森本、高橋、竹島、渡辺、横山、齊藤、須長、山崎、渡部、中島、村井、

**講師** 草笛 松永昭光先生

**県** 田中、杉崎、

鶴岡八幡宮さんの大型ネットワーク活動で、午前はパートナー林の林内整備他、午後は成長の森までの自然観察を行い、無事に終了した。

午前は、参加人数も多いため、下記のワークショップも開催し、時間差での対応とした。

森林施業 水源涵養機能の実習の後、枝打ち(修景)とアニマルヘッジ補修作業を分担。

ワークショップ うぐいす笛、シュロバツタ、丸太切り、万華鏡、草笛教室

結果として、「やどりき水源林のつどい」のミニ版となり、目が回る忙しさだったが、先方の事務局スタッフの応援もあり、何とか運営することが出来た。

最後に、松永先生の草笛演奏で、もみじ・ふるさとの2曲を斉唱。村井ガラスが鳴き出したところで、秋色に染まったやどりきをあとにした。今後とも、こうした楽しい多彩な取組を大切にしていきたいと思った。(記 5期 森本)

お詫びと訂正

本誌12月号「活動短信」P7の“NECパートナー林の間伐~”の社名表記が不正確であったため関係者の皆様にご迷惑をおかけしました事を深くお詫びし、NECエレクトロニクス(株)様と訂正いたします。なお、ホームページは訂正済みです。(M)

やどりき水源林  
ミニガイド

12月のトピックス



12月と言えばクリスマス。11月を中心に水源林パートナーの皆さんで、クリスマスリース作りが

行われました。上は杉やヒノキで作ったリースです。

1月の水源林



1月に入ると木々の冬芽が大きくなります。ミツマタは3月の開花に向けて白い蕾が膨らみます。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午後1時より1～2時間程度(12・1・2月休止)

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

竹ヒゴづくり&竹籠体験

一般の方の参加大歓迎です！！

日時：2010年2月14日(日)

場所：やどりき水源林休憩棟

時間：10時～15時

集合：JR松田駅北口・9時

直行の方・現地 9時40分

参加費：500円・

持ち物・詳細/申し込み・1月30日

森林文化部会

落合洋右：TEL/FAX045-431-1608

中元：[nakamoto@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:nakamoto@jasmine.ocn.ne.jp)

(美味しい、トン汁がでます。)



森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 電子配信希望 >

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/ < 株リコ

ー・森宛 045-590-1910 >

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

< メール・手書き原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i\_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

原稿の締切は毎月20日です。

= 編集後記 =

新年を迎えどんぐりポットを考えました。職場で飲み終わった紙コップにシュレッターされた紙を土代わりにどんぐりを入れる。大きくなったらコップごと地球に埋める。元気に育っています、究極のリサイクルです。



(金森)

謹賀新年。早朝、海岸走る。セキレイが尾を振り群舞。昨年の漢字“新”。我が会の今年の文字は如何。“挑”進“順”保“穩”いろいろあるが、年頭の思いは？吐く息も白くなる厳冬、ふうじゃを召さぬよう。

(鈴木松)

新年、おめでとうございます。また、新しい年が始まります。今年も事故や怪我が無いように楽しくボランティアしましょう。

(森)

平成2年に森林インストラクターの研修に参加して今年で早20年。初心を忘れずに森林(自然)に接していきたいと思います。

(井出)

いつものことですが、年末のあわただしさの中であれよあれよという間に新年です。2010年は2009年よりも一歩前進を目標にしたいと思います。

(鈴木朗)

謹賀新年・今年の抱負を一言  
会報は会の顔です。躍動する会員の息づかいを誌面に取り入れる事を目標に、中身の濃い「森のなかま」発行に邁進しようと思います。

(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫(H.P)鈴木松弘、

金森 巖 森本正信

森 義徳 鈴木 朗

第7回 水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム<川崎・横浜地域フォーラム

神奈川県では、県民の皆様にご負担いただいた個人県民税を財源として、水源環境の保全、再生に取り組んでいます。今回のフォーラムでは、これまでの事業実績をご報告し、これからの水源環境への取り組みについて、参加者の皆様と一緒に考えていきたいと思います。

日時：平成22年1月26日(火)

主催：水源環境保全・再生かながわ県民会議

18時半～20時半(18時開場)

定員：先着283名(当日受付・入場無料)

場所：横浜市開港記念館

パネリストとして、神奈川トヨタ自動車(株)金子氏

日本大塚駅出口1から徒歩1分

宮崎小学校 草開氏・我が会では 武川氏が参加・